

エゾシカ関連中長期モニタリング項目と評価指標

下線部が要検討事項。

1. モニタリング項目

(1) 知床岬草原

上記の3指標について、当面毎年実施。

既存3囲い区のモニタリングの調査間隔を見直すかどうか？

(2) 森林樹木

(採食圧広域調査)

調査頻度をどうするか？

数多くある既設調査区から、どれを選んで、どういう順序で進めるか？

(高山域の採食圧調査については、これまでの順序では21年度は遠音別岳)

(3) 高山植生

知床連山の登山道と知床岳知床沼の踏みあとについては、利用者の踏圧調査と並行して環境省アクティブレングジャーの業務としてモニターできるよう簡便な調査項目で実施する。

なお、既存の植生モニタリングサイトに関しては、専門家による調査を別途検討すべき。

(4) 海岸植生

5年で回帰する調査頻度で行う。特に指標として種を特定せず、調査地点の植生調査を継続。

2. 調査方法の統一

植生調査(草本)は1平方メートルを最小単位とする。

他の調査方法(被度判定など)について、統一化するか？

3. 知床岬草原での植生指標

密度操作実験により、シカ越冬数(夏場の利用数も)低下の短期的な効果を測れる指標としては下記の3つ。長期的には大型草本・希少植物の再分布など。

- ・イネ科草本(増加)
- ・アメリカオニアザミ(衰退)
- ・ササ(地上高増、幹数増)